秋田高校 同窓会だより Vol.112

AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

令和４年度通常総会

150周年募金のお願い

●あの頃の思い出 「野球部の思い出」◎大久保 正樹 氏

交差点 ◎近江 直人 氏

エッセイ ◎八代 健志 氏

ズームアップ ◎いとう まゆ 氏、柏原 元 氏

プレ150周年を祝う

来年度迎える創立150周年を記念し、3年生を中心とする約380人が9月30日、学校ラグビー場で校章と周年の数字150の人文字をつくった。
(秋田コアビジネスカレッジ撮影)

秋田県立秋田高等学校　●学校創立　明治6年（1873年）9月1日
●卒業生総数／39,449人（旧制中学7,080人、新制高校32,369人）　●在籍生徒数／817人（男子476人、女子341人）
●同窓会員数／39,914人　●物故者／10,532人　●現会員数／29,147人　［令和4年10月20日現在］
●ホームページ　http://akitahs-doso.jp　●E-mail　aki-doso@cna.ne.jp

150周年記念事業承認

通常総会に150人集う

秋田高校同窓会の令和4年度通常総会は6月26日、秋田市のANAクラウンプラザホテル秋田に約150人が出席して開かれた。

始めに銭谷眞美会長が「来年9月1日をもって母校秋田高校は創立150周年の節目を迎える。同窓会としては学校と協力しながら150周年を記念した事業を計画し、実施していきたい。北雄の翼など国際的な教育活動の支援や教育施設の整備、さらに150年史、新先蹤録の刊行など、記念式典を含めたいくつかの事業を予定している。それらを実現させるための募金計画をたて実施していくのでご協力をお願いしたい」とあいさつ。

続いて柘植敏朗校長が「生徒のアメリカ研修事業・北雄の翼は初年度の平成30年、翌令和元年とボストンで開催した。研修ではデスカッション、プレゼンだけでなく、最先端の研究施設や大学の施設を見学できた。さまざまな刺激を受けて生徒たちは短期間ながら、目に見えて成長する姿を目の当たりにしてこの企画の効果は絶大だと感じた。教育振興基金の拡充にご支援をお願いしたい」と述べた。

150周年募金への協力を呼び掛けた銭谷会長

続いて議事に入り、令和3年度の会務・事業報告、会計決算報告を承認。令和4年度の事業計画と1700万円に上る一般会計予算が原案通り承認された。また「北雄の翼」支援事業など、母校の教育振興を目的とした教育振興基金の拡充などを主な柱とする創立150周年記念事業と事業資金として5000万円の目標額を設定し、一口5000円の募金を呼びかける案も原案通り承認された。このほか櫻田裕之氏の監事辞任に伴い新しい監事に廣嶋義也氏（昭和55卒）を選任した。

総会に続き有人宇宙システム株式会社ISS利用運用部長兼新事業開拓室長の佐藤巨光氏（昭和63卒）が「国際宇宙ステーション完成までの道のりと、これからの商業利用」と題して記念講演した。恒例の懇親会はコロナ禍により中止となったが、それに代わり交流会が行われた。

●講演要旨4面に
●創立150周年記念事業・募金計画5面に

天上天下 TENJO TENGE

今号の同窓会だよりには久々に「つどい」のページが登場した。コロナ禍のなか、強い思いで同期会を開催した年次の方々から原稿と写真、「必ずだよりに掲載してほしい」――との熱いメッセージもいただいた。「二年は我慢したが、三年は無理」との言葉は、同期会が単なる飲食の場ではなく、同窓生にとっては何物にも代えがたい貴重な再会の場であることを再認識させられた▼今号の「つどい」の中で、昭和42年卒同期会の原稿は秀逸だ。集合写真のシャッターが押される直前に、一同の拍手の中、四国から遠路やって来た夫婦、しかも障害を持つ夫を妻が支えながら合流する場面はじわっと心が温まる。実際にあった話だけに、作為が無いところが感動的なのだ▼コロナウイルス感染症対策として、飲食を伴う集まりは「長時間は避ける」「マスク会食」「密を避けた席の配置の徹底」「十分な換気」――などが掲げられている。これらのハードルを越えて集まったからこそ、会場の同窓生らの笑顔が一段と輝く▼来年は母校創立150周年の記念すべき年だ。明るい笑顔で再会できる平和な日常が戻っていることをみんなで願おう。

一般会計報告（同窓会事務局）

令和3年度　一般会計　決算報告書

＜収入の部＞　（単位：千円）

項　目	予算額	決算額	増　減
入　会　金	1,886	1,879	△ 7
会　　費	11,000	11,082	82
協賛広告費	420	380	△ 40
会 議 収 入	0	0	0
雑　収　入	282	226	△ 56
繰　越　金	3,632	3,632	0
収 入 合 計	17,220	17,199	△ 21

＜支出の部＞

項　目	予算額	決算額	増　減
事　業　費	4,660	4,809	149
だより発行費	2,300	2,585	285
母校協力費	1,050	1,020	△ 30
新入会員歓迎費	650	659	9
年次強化費	100	0	△ 100
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ維持費	100	247	147
資料室運営費	100	71	△ 29
広告費	60	55	△ 5
羽城館維持管理費	300	172	△ 128
会　議　費	1,500	1,269	△ 231
総会費	300	405	105
運営委員会費	400	412	12
委員会費	250	82	△ 168
支部関係費	550	370	△ 180
事　務　費	8,230	8,195	△ 35
給料・手当	2,700	2,694	△ 6
消耗品費	150	217	67
印刷費	30	0	△ 30
通信費	4,200	4,150	△ 50
手数料	800	746	△ 54
機器運営費	150	263	113
旅費・交通費	200	125	△ 75
基　　金	0	0	0
同窓会基金	0	0	0
雑　　費	80	50	△ 30
慶弔費	50	30	△ 20
雑費	30	20	△ 10
予　備　費	2,750	0	△ 2,750
予備費	2,750	0	△ 2,750
支　出　合　計	17,220	14,323	△ 2,897

令和4年度　一般会計　予算書

＜収入の部＞　（単位：千円）

項　目	予算額	前年予算額	増　減
入　会　金	1,930	1,886	44
会　　費	11,200	11,000	200
協賛広告費	420	420	0
会 議 収 入	320	0	320
雑　収　入	254	282	△ 28
繰　越　金	2,876	3,632	△ 756
収 入 合 計	17,000	17,220	△ 220

＜支出の部＞

項　目	予算額	前年予算額	増　減
事　業　費	4,990	4,660	330
だより発行費	2,500	2,300	200
母校協力費	1,050	1,050	0
新入会員歓迎費	680	650	30
年次強化費	100	100	0
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ維持費	200	100	100
資料室運営費	100	100	0
広告費	60	60	0
羽城館維持管理費	300	300	0
会　議　費	1,500	1,500	0
総会費	300	300	0
運営委員会費	400	400	0
委員会費	250	250	0
支部関係費	550	550	0
事　務　費	8,330	8,230	100
給料・手当	2,700	2,700	0
消耗品費	200	150	50
印刷費	30	30	0
通信費	4,200	4,200	0
手数料	800	800	0
機器運営費	200	150	50
旅費・交通費	200	200	0
基　　金	0	0	0
同窓会基金	0	0	0
雑　　費	80	80	0
慶弔費	50	50	0
雑費	30	30	0
予　備　費	2,100	2,750	△ 650
予備費	2,100	2,750	△ 650
支　出　合　計	17,000	17,220	△ 220

『一般会計　決算・予算』概要説明

（同窓会事務局）

① 令和3年度決算

収入

・年会費は予算通りの収入を確保。
・会議収入０はコロナ禍に伴う懇親会の中止による。雑収入予算比減は同期会開催案内等の発送代行の減少による。

支出

・概ね各経費とも予算比減で推移。
・だより発行費予算比285千円増は窓付封筒の単価を抑えるため印刷部数を増やしたことによる。
・ホームページ維持費147千円増はHPサーバーの移設に伴う改修による。

② 令和4年度予算

収入

・年会費は機会をとらえて積極的に納入のお願いをすることによる増を見込む。
・会議収入を例年並みに復活。他は概ね前年並みで計上。

支出

・だより発行費、ホームページ維持費は前年度実績による。
・他は概ね前年並みで計上。

4年ぶりに支部長会議を開催

秋田高校同窓会支部長会議が6月26日、通常総会前に、同じANAクラウンプラザホテル秋田で開催された。県外5支部を含め18支部の代表と本部役員ら34人が参加し、本部と支部の情報交換などを行った。

支部長会議は3年ごとの開催で、本来は昨年開催の予定だったが、コロナ禍の影響で一年延期されており、今年は4年ぶりの開催。

本部からは、県外から参加の支部長の旅費を申請により一部補助（半額、上限2万円）することにしたことや、支部等同窓会旗作成の補助制度（1万円まで全額、1万円超は半額、上限2万円）について報告があった。

支部からはコロナ禍で総会など開けず、なかなか思うような活動ができない現状が報告された。その中でズームを使っての会議開催や、若い世代に参加してもらう狙いで、大学生たちに参加費無料の招待状を送っている事例などが紹介されていた。

創立150周年記念

キャッチフレーズ＆ロゴ募集
秋田高校が同窓生に呼びかけ

来年度、秋田高校は創立150周年をむかえます。これを記念して、本校在校生に加え、ひろく同窓生の皆さまからも150周年記念のキャッチフレーズとロゴを募集します。150周年を広報するためにふさわしいキャッチフレーズおよびロゴ（どちらか一方でも構いません）。ロゴについては、「150」という数字を入れていただければありがたく思います。

応募方法

キャッチフレーズは文章（テキスト）もしくは画像、ロゴは画像（形式は問いません）で次のメールアドレスにお送りいただくか、以下の住所の本校担当まで郵送してください。（作品はオリジナルのものに限る）

なお、いずれの場合も「住所、氏名、電話番号（またはメールアドレス）、卒業年」をお書き添えください。

応募先

メール　akitakoukou150@gmail.com
（件名に「150周年」とお書きください）
郵　送　〒010-0851秋田市手形字中台1番地
秋田高等学校　150周年記念募集係

メ　切

令和5年1月30日

発　表

採用させていただいたキャッチフレーズとロゴは、本校HPで発表いたします。

通常総会
記念講演
要旨

「国際宇宙ステーション完成までの道のりと、これからの商業利用」

有人宇宙システム株式会社
ＩＳＳ利用運用部長兼新事業開拓室長　佐藤 巨光（昭和63卒）

私が勤務している有人宇宙システム株式会社（ＪＡＭＳＳ）は、国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）の実験棟「きぼう」の運用・利用にあたっている。ＩＳＳは幅が約１０９メートルで長さが約73メートル。重さは約４２０トンあり、ジャンボジェット機が約３５０トンなので、それよりちょっと重いかな、というぐらい。宇宙にある建造物の中で一番大きい。これをどうやって作ったかというと、いくつかのパーツに分けて宇宙に打ち上げ、組み立てた。

最初の打ち上げが１９９８年11月でロシアから打ち上げられた。その後米国のスペースシャトルがその任を担う。２０００年から宇宙飛行士の常時滞在が始まり順調と見えたが、２００３年２月１日にコロンビアの事故が発生する。この事故によってＩＳＳの打ち上げは一時中断した。「この先どうなるのか？」と思ったが、事故調査終了の後、２００５年に再開された。

日本の宇宙実験棟「きぼう」のパーツは、２００８年から翌年にかけて打ち上げられた。最初が２００８年３月で土井隆雄宇宙飛行士が乗り込んだ。次が同年６月で星出彰彦宇宙飛行士が搭乗したチームで一番大きな部分を組み立てた。最後が翌２００９年７月で、この時は若田光一宇宙飛行士が搭乗した。ＩＳＳが完成したのは２０１１年７月だが、１９９８年11月の第一回から２０１１年７月のラストまで40数回、個々のパーツに分けて打ち上げ、宇宙飛行士が宇宙空間で組み立て、出来上がった。

日本が開発した宇宙実験棟「きぼう」は外径４・４メートル、長さ11・２メートルの船内実験室を持ち、それに物置小屋がわりの船内保管室、船外実験プラットフォーム、ロボットアームで構成される。独自のエアロック（船内と船外でモノを輸送するための装置）とロボットアームを使い、物を出し入れできるのが特徴。船外実験プラットフォーム、エアロックを持っているのは日本だけだ。当初、エアロックにどんな使い道があるのか？という疑問の声が出ていた。今ＩＳＳで最も使われているのがこのエアロックで、大いに活躍している。

ＩＳＳで行われている実験は船内では宇宙特有の環境を活用した新素材探究や機構解明など、生物系、材料系、物流系と幅広い分野での宇宙実験が行われている。また宇宙産業への装置供給などを目的に宇宙の現場で実際に、ロボットを含めたさまざまな装置を使う実証実験も行われている。一方船外では地球撮影や通信実験、各種技術実証を行う小型衛星の放出や、宇宙環境に耐える新素材の開発・試験である曝露材料試験を行っている。

こうして活躍しているＩＳＳだが、２０３０年には退役するといわれている。ＩＳＳの次の考え方として、民間の商業宇宙ステーションの開発が進められている。米国アクシオン・スペース社はＩＳＳの上で自分たちのステーションを組み立て、最後は切り離して自立することを目指している。２０２４年から打ち上げを開始し、２０２８年ごろには自立する計画。すでにＮＡＳＡと契約が結ばれている。

我がＪＡＭＳＳでは民間の宇宙利用をサポートしている。営農サービスは宇宙から生育状況を見える化のタイトルでさまざまなデータを提供している。また宇宙環境を利用した高品質タンパク質結晶生成サービスなども行っている。今後こうしたサービスを広げていきたい。

かつて宇宙開発は大国ロシアといわれた当時のソ連と大国米国が覇権を争う場だった。今は民間企業が事業の場として利用している。これから宇宙は遠い憧れではなく、誰もが手が届く、可能性のある場所になると思う。宇宙開発はビジネスの場になり一層発展する。次の世代にとって宇宙は夢見る場ではなく、夢の実現の場だ。さまざまなアイデアを出して、宇宙開発を進めていってほしい。

Profile

さとう・なおひろ／1969年秋田市生まれ。東京大学工学系研究科航空宇宙工学専攻修了（工学博士）。1997年有人宇宙システム株式会社（JAMSS）に入社し、宇宙飛行士訓練の立ち上げに従事。2001年国内初の宇宙飛行士訓練インストラクタとして認定。2006～7年国際宇宙ステーション（ISS）実験棟「きぼう」の打ち上げ・組み立てミッションにて、宇宙飛行士訓練をリードインストラクタとして担当。2008年交信担当として宇宙飛行士を筑波宇宙センター管制室よりサポート。2013年「きぼう」の計画管理に関わる業務に従事。2019年JAMSSの新規事業開発として、ISS内での実証ミッションと宇宙環境を利用したサービス提供を実現。2022年からISS利用運用部の部長職、ISS退役後を見据えた事業開発を行う新規事業開拓室の室長を兼務。

秋高創立150周年

記念事業5000万円募金
善意続々2609万円
母校に、より一層の支援を

秋田県立秋田高等学校 創立百五十周年記念事業 募金趣意書

拝啓　同窓の各位におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私たちの母校秋田県立秋田高等学校は、令和五年九月一日をもって創立百五十周年を迎えることになります。

秋田高校は、明治六年の創立以来、その長い歴史を通じて、文武両道と自主自律の精神のもと、品性の陶冶を目指した全人教育が行われてきました。幾多の有為な人材を生み、なお新しい時代を拓かんと躍動し続けていることは、同窓の各位とともにまことに同慶に堪えないところであります。

しかしながら少子化の波にともない、現在は校歌にある一千健児を割り込み一学年七学級、全校生徒八百人余となり、母校を取り巻く環境には厳しいものがあります。このような現状をみるに、母校のなお一層の充実、発展を期することは、我々同窓生に課せられた責務であると考えます。

この度創立百五十周年の大きな節目を迎えるに当たり、秋田高校ですごした青春の日々に感謝しつつ母校の教育のさらなる発展を願い、教育施設設備の整備、教育活動の活性化支援、百五十年史、新先蹤録の刊行など記念事業を行うための資金として一口五千円を募り、目標額を五千万円といたしました。

何卒、母校の発展と後輩育成のため、ご寄付賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

敬具

令和四年七月

秋田県立秋田高等学校
創立百五十周年記念事業実行委員会委員長
同窓会長　銭谷眞美

同窓会会員　各位

来年の母校創立150周年に合わせて同窓会が実施する記念事業に充てるため、総額5000万円を目標とする募金を8月から実施しています。10月末現在、約2609万円の善意が寄せられています。「北雄の翼」など在校生を支援する事業について多くの同窓生から賛同の声が寄せられており、誠に力強い限りですが、同窓各位のなお一層のご支援をお願いします。既に寄付された方も2回目のご協力をいただければ幸いです。

同窓会のホームページもご覧ください。
(http://akitahs-doso.jp/150aniv)

主な記念事業

① 秋田高校教育振興基金の拡充　3000万円
② 150年史の刊行　800万円
③ 新先蹤録の刊行　570万円
④ 同窓会員データ管理システムの更新　500万円
⑤ ホームページのリニューアル　150万円
⑥ 同窓会だより臨時号の発行　300万円

募金計画

◆目標額　5000万円
◆期間　令和5年8月末日まで
◆募金方法
1口5000円。できれば2口以上お願いします。また、5000円未満でもありがたく受け付けします。
◆払込方法
・同封の払込用紙をご利用ください。払込先の受領証をもって領収証に代えさせていただきます。
・現金書留又は秋田高校同窓会事務局までご持参いただいても結構です。
◆問い合わせ先
〒010-0851
秋田市手形中台一番地
秋田県立秋田高等学校内
創立150周年記念事業実行委員会事務局
電話　018-832-9553
FAX　018-832-9588
Eメール　aki-doso@cna.ne.jp

秋田高校創立150周年記念事業　予算

収入の部　（単位：円）

項目	予算額	摘要
繰入金	15,000,000	基金会計からの繰入
有償頒布	6,000,000	150年史の有償頒布
寄付金	50,000,000	1口5千円（できれば2口以上。5千円未満も可）
合計	71,000,000	

支出の部

項目	予算額	摘要
①教育振興基金の拡充	30,000,000	
(1)「北雄の翼」支援事業	17,000,000	170万円×10年
(2) 講演会講師派遣費	10,000,000	100万円×10年
(3) 大体育館電動スクリーン・プロジェクター	3,000,000	
②150年史の刊行	8,000,000	A4版変形、本文約400頁、グラビア32頁、3千部
③新先蹤録の刊行	5,700,000	A5版、縦書き2段組約300頁、3千部
④同窓会員データ管理システムの更新	5,000,000	
⑤ホームページのリニューアル	1,500,000	
⑥同窓会だより臨時号の発行	3,000,000	
⑦記念行事、祝賀会、通信費など	3,300,000	記念行事、祝賀会など
⑧羽城館整備費	1,500,000	建築設備、空調機器の整備
⑨事務局費	2,500,000	
⑩予備費	500,000	
⑪繰出金	10,000,000	基金会計へ繰出し
合計	71,000,000	

成年年齢引き下げがもたらすもの

弁護士　近江　直人（昭和60卒）

私もそうだったが、大学に入って1人暮らしを始めたころ、街角でアンケートと称してキャッチセールスに声をかけられたり、先輩などからマルチ商法に誘われたりした経験のある人は少なくないのではないか。

消費者庁によれば、これら契約に関するトラブルの相談件数が20歳になった途端に2～3倍増すことが分かっている。これは実は、民法の成年年齢の定めによってもたらされている。どういうことか。

未成年者はまだ成長過程であり十分な判断・行動制御能力が備わっていないとされ、未成年者を保護する必要から、契約を結ぶには親の同意が必要であり、同意のない契約は取り消すことができる（未成年取消権）。

悪質商法に巻き込まれたとしても、未成年というだけで契約を取り消すことができる。未成年の立証は簡単である。業者からすれば、未成年者に契約させても容易に取り消されることになるため、未成年者は避け、成年になりたてのうぶな若者を狙うことになる。成年になったかどうかは悪質業者にとって重要な関心事なのである。

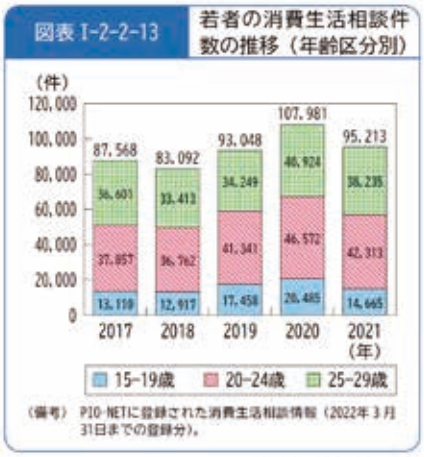
令和4年4月1日民法改正により、成年年齢が満20歳から満18歳に引き下げられ、高校3年の途中で成年を迎えることとなった。このことは高校3年生も悪質業者のターゲットになることを意味する。高校生なんてだまし取られるお金は持っていないといっても、成年になれば借金も独りでできる。「これをやれば借金して払ってもすぐに倍に増えるから返せるよ」と勧誘する。お金がないからこそこの手の話に乗りやすい。

友人知人を誘うマルチ商法被害の相談は20代が圧倒的に多く、大学の中でしばしば流行している。これが今後は高校3年生もターゲットになる。被害にあっている自覚のない者は、よかれと思って友人を勧誘し被害を拡大させる。友人関係が何よりも大切な年頃であり容易に広がる。また、高校3年生には成年者と未成年者が混在する。未成年取消権で救われる人とそうでない人が出てくる。高校の中でマルチ商法がはやってしまった場合の混乱は底知れない。

マルチ商法以外にも、スマホ、SNSを利用した悪質商法は枚挙にいとまがない。社会経験の少ないスマホユーザーという格好の餌食を悪質業者は狙っている。

秋田弁護士会はかつて、毎年高校に消費者教育の講師派遣を行い、県がその費用を負担していたが、県の財政削減をうけ平成23年を最後に実施されなくなっていた。

成年年齢引き下げを半年後に控えた昨年9月、県高校教育課に高校の実情を聞いたところ、この問題についての生徒の安全安心に対する対応は手つかずということであった。そこで、ことの緊急性に鑑み、講師となる弁護士への謝金を秋田弁護士会が支払うこととして出前授業を企画したところ、県内全域の14校から派遣要請があった。その反響は大きく、生徒は毎年入れ替わることでもあり、毎年継続して実施できる体制が必要ではないかということで、改めて県教育庁に対し消費者教育の充実のための予算化をお願いしているところである。



消費者白書（令和4年版）より

4月から成人年齢18歳に
悪徳商法 若者の被害防げ
秋田弁護士会
高校向け消費者教育に力

秋田魁新報2022年2月3日付記事

Profile

おおみ・なおと／1966年大仙市（旧協和町）生まれ。中央大学法学部卒。1995年4月弁護士登録し横手市に法律事務所を開業。2012年4月から2013年3月まで秋田弁護士会会長。現在、秋田弁護士会消費者問題対策委員会委員長、ジャパンライフ被害対策秋田弁護団団長等。

富士フイルムBI秋田
代表取締役会長
辻　良之（昭和50年卒）
代表取締役社長
吉田　進（昭和54年卒）
秋田市川尻町字大川反170番92
TEL.018-823-4645 FAX.018-823-7559

内科・外科・胃腸内科・肛門外科
医療法人 義業会 曽根医院
曽根純之
（昭和54年卒）
〒013-0502
横手市大森町袴形字西神成7-2
TEL 0182－56－4111
FAX 0182－56－4112

むつみ合う家づくり、街づくり…
むつみワールド
代表取締役
佐々木克巳（昭和54年卒）
〒010-0973
秋田市八橋本町三丁目18番33号
TEL.018-863-5050
E-mail：kojiroh@mutumi-w.co.jp
http://www.mutumi-w.co.jp

秋田城跡鎮座
秋田県護國神社
宮司　面山浩康
（昭和五十四年卒）
〒〇一一－〇九三九
秋田市寺内大畑五－三
TEL〇一八－八四五－〇三三七
FAX〇一八－八四五－三三四一

校長所感

生徒らに伝えたい「ふるさと」の良さ

秋田高校校長　柘植 敏朗

この稿が上がる前日の9月30日、秋田高校では「創立150周年記念プレイベント・校歌制定100年企画」と銘打って「太平山登山・雄物川強歩・人文字撮影」を同時進行で行いました。学校行事一つ行うだけでも一仕事であるところを、今回は三つ実施するということで準備にはそれなりの大変さがありました。しかしこの企画の実現に向けて同窓生の皆さま方に協力をお願いした際、各方面で快くお引き受けいただいたことには感謝の言葉しかありません。この場を借りて御礼申し上げます。雲一つない秋晴れに恵まれた当日の様子について、人文字は今号の表紙で、他については別の機会にご紹介したいと思います。

ところでこの夏、大学の恩師から一枚のDVDが届きました。中の手紙は「柘植くん、コロナ禍で学校は大変だろう。夏休みで一息つける?これを読んで楽しかった昔を思い出しては」と結ばれていました。DVDは1977年発足の私が所属した研究科の年報をすべてPDFにして収録したもので、改編でなくなるまでの28年分が収められていました。国連人間環境会議（1972年）を契機に環境問題意識が高まる1970年代後半に「環境科学」という名称でスタートした研究科は、文理の垣根をなくしたユニークな教員構成とカリキュラムが特徴でした。また私が入った80年代後半は、世の中に「環境」という言葉は浸透したものの「環境科学とは何か」といった議論がまだ学内に残っていた頃で、DVDはさまざまな思い出をよみがえらせてくれました。

私が入る2年前、研究科を退官された研究者に川喜田二郎教授がおられ、まだ名札の残る研究室の前に立った記憶があります。年報には教授の研究科に対する深い思いをつづった文章が残っており、すれ違いだったことが未だに残念でなりません。教授はKJ法で知られた方ですが、登山やフィールドワークでも第一線で活躍されていました。自主製作したDVDを送ってくれた恩師に感謝しながら、直接教授の教えを拝聴することが出来なかった当時の寂しさを思い起こしつつ、年報を読むことがこの夏休みの日課になりました。

そして夏休み明け、金沢で行われたPTAの全国大会に参加した時のことです。分科会の講師が地域活性化や若者の地元定着といった地方が抱える課題について話題提供した際、参考資料として川喜田教授の著書を取り上げたのです。「ふるさと」は単純に生まれ育った場所が「ふるさと」になるわけではなく、自らが創造的な体験をすることの積み重ねによって初めて「ふるさと」と思うようになる、という主張でした。日本はもとより世界各地でフィールドワークを行ってきた教授には第二、第三の「ふるさと」が存在しますが、その理由はそれぞれの地で創造的な活動を経験したことが理由だと繰り返し述べています。短期間に二度、教授の思考に出会ったことに驚かされました。

人口減少が著しい秋田県は、若者の地元定着が大きな課題となっています。高校で生徒を預かる者の一人として地元定着は一番の仕事です。一方で生徒が日本や世界で活躍することを夢見るのであれば、とりわけ秋田高校はそうした人材を輩出することも重要な使命です。

県外に卒業生が出ていくことにさまざまな意見があることは承知していますが、成長期に秋田の良さや素晴らしさを感じられた人は、たとえ国外に活動の場があっても秋田を考え秋田のために貢献してくれる、あるいはいずれ秋田に戻ってくることも期待できるのではないでしょうか。秋田で育った子どもたちが、学校あるいは家庭や地域で「ふるさと」の良さや自己肯定感を十分に感じることができるよう、いつも心がけていきたいと考えています。

つげ・としろう／昭和40年湯沢市生まれ。平成元年筑波大学大学院卒業とともに教員生活に。花輪高校からスタートし、秋田高校、本荘高校、秋田南高校に勤務。その後、秋田南、五城目各高校で教頭、平成30年に秋田高校副校長。その後、令和2年五城目高校長を経て令和4年秋田高校長。

株式会社 ヨロズヤ
代表取締役 堀川 誠（平成元年卒）
Makoto Horikawa
〒010-1653 秋田県秋田市豊岩小山字狐森325番
TEL. 018-888-8398
rentayoro@trad.ocn.ne.jp
《リース部》TEL. 018-888-8341
FAX. 018-888-8342

JIKODO×MINASE×銀線細工
ジコードウオリジナル
サキホコル
ジコードウが、世界に誇るメイドイン秋田の腕時計「MINASE」と秋田の伝統工芸「銀線細工」をコラボさせた腕時計「サキホコル」。

ふるさと納税サイト「さとふる」と「ふるぽ」にも掲載しています。
幸せ感じる 時わすれの空間
JIKODO Since 1930
取締役会長 藤井 厚生（昭和32年卒）
代表取締役 藤井 政徳（平成元年卒）
0120-18-3221
秋田市大町1-2-7 サンパティオ大町
ジコードウ 秋田 検索

さんのへ耳鼻咽喉科クリニック
SANNOHE E.N.T. CLINIC
院長 三戸 聡（平成元年卒）
〒010-0814 秋田市泉東町8-57
sannohe-jibika.com

Essay エッセイ

人形アニメーションをつくる

人形アニメーション作家・監督　八代 健志（昭和63卒）

やしろ・たけし／1993年東京藝術大学卒業後、CM制作会社 太陽企画㈱に入社。現在は同社内にアニメーション制作スタジオ「テカラ」を立ち上げ、短編映画のほか広告でのアニメーションなどを手掛けている。初期の短編「ノーマン ザ スノーマン」は雪のない東京から秋田の雪を懐かしんだ学生時代の記憶が発想の原点。

人形を使ったストップモーションアニメーションを作っています。「コマ撮り」とも呼ばれ、人形などを数ミリずつ動かしながらたくさんの静止画を撮影し、それを連続して再生することによって動画として見せるアニメーション技法です。今年、秋田県芸術選奨をいただいた「劇場版ごん」という作品もこの技法で作りました。

元々は実写を中心にテレビCMのディレクターをしていました。10年ほど前、一本の自主制作アニメーションを作りました。それを礎にしてストップモーションアニメーションに転向し、現在、短編映画やコマーシャルで、監督、人形制作、美術、アニメーターをやっています。

ストップモーションをはじめたのは40歳を過ぎた頃。それなりに年を取り、素直に自分の好きと嫌いが分かってきた頃でした。キャリアも積んで楽しく仕事をしていましたが、その一方で、モノを作る人間は純粋なようでいて自己顕示欲も隠せないもので、、僕も例にもれません。実はスターを目指していたのに、思い描いていたほどスターになれてないな～なんてことも思っていました。周りを見渡せば、僕が作りたいものを僕より上手に作るヤツも現れ、しかもそれが本当に良かったりもする嫉妬。好き嫌いにかかわらず、得意と不得意がある残酷さも突きつけられていました。

実写の撮影ではスピード感あるコミュニケーション能力がものを言います。僕はどちらかというと人とのコミュニケーションが苦手でした。逆に、ゆっくりじっくりできる時間さえ稼げば、自分の手でなんでも作る！という自信がありました。仕事として作るなら、自分のほうが他の誰よりいいものを残せる土俵で勝負したい。そう思ってかじを切った先がストップモーションアニメーション。ちょっと遅めの土俵入りでした。

さて、現在、ストップモーションは3DCGに押され少数派。単に動かすだけなら3DCGより手間がかかる。今この時代に、あえてストップモーションを作るには、この表現でなければ出せない魅力をしっかりと自覚する必要があります。

ストップモーションの魅力は見た人が「どうやって作ったか分かる」ことではないかと思っています。人形は作り物であることを隠さず、むしろ人形だと主張するほうがいい。見る人も、作りものだと了承の上で物語に感情移入することを楽しむ。黒子のように、暗黙の了解のもと舞台裏をバラす。決してバレちゃった、ではない礼儀正しいバラし。それこそストップモーションの魅力だと思っています。

短編映画は一般の方々に見てもらうチャンスが限られていましたが、この数年は映画祭での受賞が相次ぎ、知名度も上がり、現在はユーネクスト、WOWOWをはじめとした配信各社から、いつでも作品をご覧いただけるようになりました。「八代健志　作品」で検索していただき、同窓の皆さんにも見ていただけるとうれしいです。どの作品も子供も一緒に楽しめる作品となっております。

『劇場版ごん GON, THE LITTLE FOX』は新美南吉「ごんぎつね」が原作。木彫人形と里山の風景描写に注力した28分。国内外で高い評価を得た。

『プックラポッタと森の時間』でアニメーションしている様子。屋外でのコマドリに挑戦した。権威あるアニメーション賞「大藤信郎賞」を受賞した実験的な16分。

ZOOM UP!

かしわばら・げん／1983年秋田市生まれ、東京都在住。ラグビー選手として明治大学・NTTComでプレー。引退後はラグビーW杯やオリンピックのSNS業務を経て、企業のSNS活用を支援する株式会社アラインを設立。専門学校でキャリア教育の授業も受け持つ。2022年アスリートのキャリアに関する著書を出版。

新たな道を切り開く！

柏原 元（平成14卒）

アスリートのセカンドキャリアのロールモデルとなる——。そんな思いで2021年4月に起業しました。

私は小学校から社会人までラグビーを続け、アスリートとしての道を歩んできました。日本のラグビーは雇用の面で非常に恵まれており、多くの社会人選手がチームの親会社で働きながらプレーをする社員選手です。引退後はそのまま会社に残り勤務を続け、そのほとんどが大手企業であり、終身雇用がほぼ約束されています。

私はNTTグループのチームに所属する社員選手として、業務は総務や人事を担当しました。28歳で競技を引退した後も同じ業務を継続しますが、会社内での自分の将来像を見いだせず、1年ほど不安な日々を過ごしました。そこで改めて目標を見直し思い切って転職することに。転職した先で数年にわたって国際スポーツイベントを経験したことが転機となり、SNSの活用方法に悩む企業を支援するコンサルティング会社「アライン」（東京・渋谷）を立ち上げました。SNSは誰もが使える大きな可能性を秘めたツールであり、私自身もSNSでの発信が新たな出会い、仕事、取材、出版などさまざまなチャンスにつながっています。

秋田高校時代を思い出すと、他校と比べて一回り大きなラグビーバッグを背負い、部活道具と一緒に教科書や辞書を詰め込んで通学した日々が頭に浮かびます。

高校3年間での学びは大きく2つ。まず学業に取り組むことで「個」が鍛えられました。学問は社会に出てからの課題に対し、さまざまな角度からアプローチすることを教えてくれます。一方、部活動から学んだことは「組織」としてのあり方です。結束し、仲間を鼓舞し、チームとしての結果を追求する。文武両道を目指したプロセスは、全く違った2つの学びを与えてくれました。今につながるキャリアを切り開くことができたのも、3年時の担任だった熊谷禎子先生、ラグビー部の監督だった近藤周平先生といった恩師の教えと支えがあったからであります。

社会人ラグビー選手が起業するというケースは非常に少なく、私自身がその一つのモデルとなることで、若い世代に可能性を示したいと思っています。

背伸びから始める運動のすすめ

いとう まゆ（伊藤 美帆）（平成11卒）

高校入学と同じ頃ダンスにはまり、それ以来26年間身体を動かしている。若い頃は動きの理論も身体の仕組みも分からず、とにかく見てまねするだけで踊っていた。その結果、一年のうち半年くらいは身体に痛みがあり、寝たきりになることもあるくらい体を傷めていた。

ただ身体が恵まれていない分良いこともあって、早い段階で身体を整える方法や、どんな身体の人でも根本的に動きやすくなるトレーニングに出合うことができた。

この根本的に動きやすい身体のポイントがやはり「姿勢」なのである。さらに言えば「骨盤」の角度。骨盤が後傾していると（いわゆる猫背で膝が曲がりやすい状態）重心が後ろに乗っているため一歩踏み出すだけでも余計なエネルギーや力みが出てしまう。骨盤が少し前傾していて背中が縮みなく伸びていると、お尻は高い位置になり重心移動がやりやすく滞っていた血流まで良くなる。シンプルで少しの違いなのだけど、骨盤の角度が改善しただけでも、身体に常に痛みがあった20代の頃より出産も経た40代の方が柔軟性も身体の軽さもアップした。トレーニング仲間の70代の女性は少し膝を曲げて歩いていた状態だったが、ブリッジもY字バランスもできるようになった。体幹を動かすことで、子供の時のしなやかな体に戻っていける。

「おかあさんといっしょ」のおねえさんをやっていた期間、親子の皆さんと接することも多くそこから自身の出産を経て、お母さんの身体にかかる負担というものを目の当たりにしてきた。お母さんの元気さは子供にも大きく影響するので少しでも身体をいたわり動かす時間が持てると良いなと思う。子育てが終わる頃に疲れ果てるのではなく、やりたいことが何でもできる軽やかな体でいられるように。朝起きた時や寝る前に背伸びをするだけでも身体は良いポジションを記憶して一日の生活が楽になっていく。まずは1分「背伸び」することから始めてみませんか。

いとう・まゆ／1980年東京都生まれ、秋田育ち、東京都在住。NHK「おかあさんといっしょ」4代目身体表現のおねえさんを7年務めた後、日本各地で親子が楽しめるイベントやWSを行う。

都内キッズダンススクール「DANCE BEANS」、大人向けオンライントレーニングスクール「いとうまゆのダンスエクササイズスクール」主催。

あの頃の思い出 10

強豪倒しベスト4

昭和40年 夏の甲子園

野球部の思い出

大久保 正樹（74）＝昭和42卒

おおくぼ・まさき／昭和23（1948）年5月秋田市生まれ。同47（1972）年神奈川大学卒業後、同年4月から秋田高校勤務。同51（1976）年4月から59（1984）年3月まで同高野球部監督。同61（1985）年4月教育庁勤務。平成21（2009）年3月教育庁参事兼保健体育課長で退職。同24（2012）年3月秋田県軟式野球連盟理事長。同28（2016）年3月から同連盟会長。

皆さんこんな言葉をどこかで一度は耳にした記憶があると思う。「汝、何の為にそこに在りや」。私がこの言葉を聞いたのは昭和39年4月秋高入学式、鈴木健次郎校長式辞の一コマだ。私の15の春は威厳かつ格調の高い訓話から始まった。その後、高校生活の中で事ある毎に訓話を耳にし、当時の生徒たちは今でも愛唱しているのである。秋高の「自主自律の精神」の原点は正にここに在ったのだと校長の偉大さを感じとった。

校長は青少年教育を専門とする方で、その教育指導理念は「青少年の足を洗うことだ」（鈴木健次郎文集）と話され、われわれは幸いにして丸三年間そのイズムの恩恵に預かったのだ。こんなに生徒に愛され親しまれた校長は後にも先にも出現しないであろう。とにかく生徒思いで、廊下や校舎内外、果てはわざわざグラウンドまで足を運び「大久保君肩の具合はどうかね、疲れているだろう」などと常に生徒と一緒の思いで声をかけ、しかも名前までもしっかり覚えていてくれたのには感激した。

津久見高を圧倒し、準決勝進出の瞬間に万歳する鈴木健次郎校長

昭和42年われわれ卒業と同時に学校を辞され、晩年わずか3年後の昭和45年8月24日に短命（63歳）を閉じた。その後数年間を校長の菩提寺土崎「嶺梅院」にお墓参りさせていただいたが、いつもお花や線香が絶やされていなかった記憶がある。さて、そんな校長は秋高へ赴任の時、東京「矢留クラブ」の面々に「野球部の強化」を諭され秋田へ赴く――と記された書の一文があったが、この異例の校長人事は教育現場一年経過後、見事な手腕を発揮する事になる。

級友の助けで苦難をしのぐ

小生が秋高野球部の門をくぐったのは校長訓話の直後になるのだが、「不安」と「希望」の入り交じる中、果たして文武両道を掲げる鈴木門下生に成りきれるのか。級友の名を覚える間もなく、早速訪れる試煉の合宿生活（食事の準備、皿洗い、早朝ランニング、グラウンド整備等）訳の分からぬまま授業へと向かうと、そこで待ち受けるのは強敵の睡魔だ。しかし、捨てる神在れば拾う神ありで、級友のさまざまな助けを頂き苦難をしのいでいくのである。

こんな苦しみの中、秋季大会では見事な戦績を収め、念願である春の選抜甲子園東北予選に向かった。優勝候補（磐城、仙台育英）を次々と撃破し、勢いの秋高は「汝、何のため…」を背

代表取締役
武藤 卓
Suguru Muto
（平成元年卒）
Mutobody Inc.
株式会社 ムトウボデー
〒010-1601 秋田市向浜一丁目5番6号
TEL. 018-863-4145㈹
FAX. 018-863-4146
mutobody@gmail.com

院長 三浦 利之（平成元年卒）

相続・遺言・会社設立
建物表題・建物滅失
司法書士・土地家屋調査士
荻原正樹
（平成元年卒）
電話：018-827-5280
司法書士おぎわら相続登記事務所秋田
〒010-0003秋田市東通五丁目12番17号
パレットハウス1階A ＊城東消防署徒歩5分

SUGIYAMA DENTAL CLINIC
杉山歯科クリニック
院長 杉山 洋行
Sugiyama Hiroyuki
（平成元年卒）
〒010-0951 秋田県秋田市山王3-5-15
TEL/FAX 018-865-2257
E-mail info@su-dc.com
http://www.su-dc.com

負った鈴木魂が、晴れて初の春選抜甲子園に一歩近づいたのであった。その日夜遅く秋田駅に到着し、大勢の関係者に出迎えを受けたが、その中にもちろん鈴木校長も。かすかに目元が涙で潤んでいたのが何となくうれしかった記憶がある。

春の甲子園の結果は、静岡高校に6－7と惜敗。秋高はこの結果を糧に夏は県内外無敵の連戦連勝へと驀進するのであるが、夏の予選は必ずしも楽ではなかった。

昭和40年、秋高の戦略パターンは鐙先発、私がリリーフとシナリオ化されていた。私は、この年巨人のリリーフとして活躍した宮田投手の名に倣い「秋田の宮田」と称された。リリーフの役目は、傷口を大きくせず、火消し役を果たすこと。そのときの心境を今思うと、高所恐怖症者が東京タワーに立った時と同じようなものである。こんな小心者小生がよく毎回投げきったものと感心したものだ。

経験した中で最も動揺し、もう駄目かなと思ったのが40年夏の西奥羽大会決勝の対秋商戦。八回まで3－2。秋高1点リードその裏秋商攻撃無死一塁でリリーフが回ってきた。さすがにこの時は前述の心境で目の前が真っ白。悪い予感のみが脳裏を過ぎる。更に頼みのリリーフ役の自分までも四球を与え絶体絶命。無死一、二塁最悪の場面。全ての視線がマウンド一点に注ぐ。神様仏様助けて。あまり験を担がないがさすがこの時は違った。困ったときの神頼み。「天は自分を見放しはしないはず」。成るように成れと他力に頼ったのである。幸いに八回裏を0点に抑え、九回表味方が1点を追加し、その裏三者凡退でしのぎ4－2で優勝出来た。

甲子園マウンドでの雄姿。「秋田の宮田」と称された

大観衆の中で頭は真っ白に

一方甲子園での楽しい思い出もいくつか。40年夏の甲子園は相当自信を持って臨んだ大会。一回戦から大阪、東京、九州と名だたる代表校と対戦もことごとく撃破し、ついに準決勝へと進出。その対戦チームが結局は全国優勝するのであるが、今の巨人監督「原辰徳」の父「原貢」監督が指揮を執る三池工業であった。福岡県が斜陽化する三池地区を活性化するため招聘した監督だった。

これが甲子園かと感心した思い出は一回戦の大鉄戦のリリーフ。5万5千人の観客の中、第一球目の投球は頭が真っ白。バックネット裏も白一色のワイシャツ群衆。主審の手が大きく上がった時、はっと目がさめ、頭の血が一気に下がったこと。ベンチ内の氷水槽の輪切りレモンにかぶりつき気分爽快になったこと。さらに練習終了後の旅館先でのスイカの一口、忘れられない味であった。

〝暑さ対策〟とスケールの大きさを感じさせたエピソードも紹介したい。練習会場はいつも伊東糾大先輩（昭和15卒）が地元芦屋高校へ勤務された関係で芦屋高校を提供してくれたのであるが、練習会場に向かう上級生は小銭を準備していた。不思議と思ったが、練習終了後上級生はなぜか全員いなくなるのである。われわれ下級生は必死にグラウンド整備中。上級生の行き先は校舎裏。なるほど、そこには飲料水自動販売機が設置されていたのだ。秋田にはまだ無かった時代だった。最初に発見した先輩は宝でも見つけた気分であったに違いない。

また芦屋高校では兵庫県の育英高校も練習されていたが鈴木啓示投手（後に近鉄入団）投球後の踏み出す歩幅が小生の歩幅より50センチメートルも長かったのに大きなショックを受けたことを今でも鮮明に覚えている。

最後に小生三年次のことも少々触れたい。前年以上の守備練習が功を奏し、2年連続甲子園出場を果たしたのである。この年は数年来の冷夏でもあったが、何よりも鈴木健次郎県高野連会長から優勝旗を受けとったのが最高に光栄で名誉であった。（写真は筆者提供）

昭和40年夏の甲子園大会戦績

1回戦	秋田高4－3大鉄高（大阪府）
2回戦	秋田高5－3日大二高（東京都）
3回戦	秋田高13－1津久見高（大分県）
準決勝	秋田高3－4三池工高（福岡県）

野球部在籍3年間の戦績

甲子園出場（夏）	2回
甲子園出場（春）	1回
国体出場	2回
東北大会優勝（秋）	1回
東北大会優勝（春）	2回

Mercedes-Benz
営業部　主任
保坂 卓郎（平成11年卒）
メルセデス・ベンツ正規販売店
メルセデス・ベンツ秋田
〒010-0976 秋田市八橋南1-2-10
TEL.018-874-7712　FAX.018-874-7744
http://mercedes-benz-akita.com

ろばた焼き
ひもり
檜森 賢
（平成11年卒）
〒010-0001 秋田市中通4-13-15
018-835-5791

HAYASHI
ISO 9001
ISO14001
認証取得
株式会社 林工務店
林工務店一級建築士事務所
代表取締役
林 德彦（平成11年卒）
〒011-0943 秋田市土崎港南一丁目14番37号
TEL.018-845-1863　FAX.018-845-6930
http://akita-hayashikoumuten.co.jp/

先進の技術、確かな信頼
SOLUTECH
取締役
高橋 尚義
（平成11年卒）
ソルテック工業株式会社
TEL.0287-35-4048　FAX.0287-34-1013
〒329-2811 栃木県那須塩原市下田野532-166
http://www.solutech.co.jp

つどい TSUDOI

コロナ禍の中で

昭和52年卒同期会

8月14日、秋田キャッスルホテルにて4年ぶり10回目の同期会を開催しました。本来は昨年開催のはずでしたが、折からのコロナ禍のためやむなく延期とし、今年は感染対策を万全に行って開催することに決定した。案内を出したところコロナ禍にも拘らず50人余りの出席を得ましたが、7月頃から第7波が広がり秋田でも千人を超える感染者がでる事態となり、一人また一人とキャンセルが続き最終的に32人の参加となりました。

山添匠君の司会進行で幹事あいさつ、物故者に黙とうの後、はるばる奈良県から駆け付けた武藤康弘君の乾杯で開宴。お互いの近況を語り合いながら終始にぎやかなうたげとなりました。菅原潤君（N響フルート奏者）と早川泰子さん（ジャズピアノ奏者）による演奏で久しぶりに生演奏を堪能することができました。最後は校歌斉唱、山岡長英君の中締めでお開きとなりましたが、言うまでもなく話し尽きない面々は2次会会場のホテルのバーへと上がって行きました。

（池田　匠 記）

還暦迎え78人集う

昭和56年卒同期会

豪雨後に青空が望めた8月14日、ホテルメトロポリタン秋田に78人が集った。小玉智さんの進行で、6年ぶり4回目の同期会が和やかに始まった。座席はクラスごとで、コロナ感染拡大防止のため、テーブルにはアクリルパーテーション。物故者への黙とうを捧げ、古井大樹発起人代表のあいさつと続き、恩師ごあいさつでは、高橋秀雄先生から「秋高で培った精神で、これからの人生を頑張ってほしい」との激励を頂戴した。神部秀行さんの乾杯や各組代表スピーチでは、還暦や人生の転機、仕事や秋高時代の話など、驚きあり、笑いありの会場は熱気と笑い声に包まれた。マスク会食で感染防止対策を徹底しながら親睦を深めているうちに、心の中での校歌斉唱、加谷圭さんのエール、西大さんの中締めであっという間の2時間1本勝負が大盛況のうちに終わった。

準備・運営が困難だった今回の同期会にご尽力くださった幹事の方々には、同期生一同感謝・感謝・感謝!!

（倉田 寛行 記）

3年の空白 笑顔爆発

昭和42年卒同期会「四二会」

コロナ禍で中止を余儀なくされていた四二会は9月3日、3年ぶりに秋田市大町の協働大町ビルで定例会を開催した。旧友と再会して酒を酌み交わしながらとにかくいっぱい話がしたい、矢も盾もたまらない元気なオールドボーイたちが集合した。その数39人。例年のほぼ半数だが、感染防止対策に万全を期した会場は笑顔、笑顔、笑顔……。

遠路四国・高知県からは千葉徹君夫妻が今回も出席してくれた。体に障害を持つ夫に妻が随行、飛行機を乗り継ぐ長旅をものともせず、定刻からやや遅れて会場に到着。すでにひな壇には37人が整列しており、千葉夫妻は大きな拍手に迎えられて無事、集合写真の中に納まった。

物故者に黙とう、校歌斉唱後、大久保正樹代表幹事があいさつの中で来年の母校創立150周年記念募金に協力して後輩たちを応援しようと呼びかけた。懇親会は終始笑い声に包まれ、予定していた2時間があっという間に訪れると、皆名残惜しそうに会場を後にしていた。

（石井　仁 記）

同期会、毎年やるぞー

昭和54年卒同期会2022

9月18日午後5時から、35人の参加で昭和54年卒業生同期会がイヤタカで行われた。

2017年に同窓会講演会の講師を同期の齋藤正直君（専修大学野球部監督）が行ってから『同期会を毎年しよう』ということで、2017−19と開催してきた。

その後、新型コロナ感染拡大のため2020−21の2年間開催を見送ってきたが、今年は話し合いにより少人数でもやろうということで開催した。一人一人がスピーチで近況を報告した。来年また元気に会うことを誓い散会した。

（高橋 信一 記）

プレ喜寿祝う

昭和41年卒同期会

2年間お休みの昭和41卒会、定例の10月第一土曜日1日にイヤタカにて開催することができた。ずーっと50人前半できた参加者、コロナ禍でどうかなと思っていたところ50近くまで集まってくれた。本体プレ150周年の今年は我々にとってのプレ喜寿の年でもある。現役1年生の時創立90周年だったのであれから60年経ったのかという感慨もわいてくる。川村幹事長より次回は喜寿の本祝い、是非とも100人に集まってもらおうとの宣言もあった。来年の10月7日ですよ、お忘れなくとの念押しがあって、同期の皆さま、来年のカレンダーが来たら、チェック忘れずに。創立周年祝賀会があっても自分たちの祝いの会は独自に行うべしとの意思がはっきり確認されたのであった。今回の県外からの参加者は13人。せっかくの里帰り、何がしかの爪痕を残してもらえればとスピーチをお願いし、同窓会グッズ、校章入りボールペンをお土産とした。加えて、集合写真には宴会中に幹事団が突貫工事して、会終了までに名前プリント添付で配布、これらはともに評判が良かった。（柴義 記）

千秋楽同期会を開催

昭和37年卒同期会

昭和37年卒同期会は9月11日、ホテルメトロポリタン秋田で卒業60周年記念兼傘寿を祝う会兼千秋楽総会を開催した。

当同期会は5年に2回のペースで総会を開催してきたが、3年前の喜寿を祝う会で、次回総会をもって千秋楽とすると決めていたため、この総会が全国規模の最後の会である。

コロナ禍で出席者数が危惧されたが、それでも49人（他県から9人）の出席があった。

総会では物故者に対して黙とうを捧げたあと、事務局から過去30年間の活動報告があった。記念講演は「人生百年に向けて」と題して寺田俊夫君（元県医師会長）。傘寿のご祈禱（きとう）は若宮八幡神社宮司田村禎助君から格調の高いご祈禱を授かった。懇親会は千秋楽ということもあって大盛況。最後の校歌斉唱はマスク着用小声でのはずが、声は次第に大きくなった。

今後は県内在住者の交流の場を設ける予定。これからもこの絆を大事にしてゆきたい。（関 徹彌 記）

「つどい」投稿について

❶「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず、原稿を短縮したり次号に回すことがあります。**原稿は概ね400字（原稿用紙1枚）**を目途にお願いします。
❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返ししません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉

「秋高らーめん」召し上がれ

母校・秋田高校の学食で提供されている「秋高らーめん」がインスタント乾麺となって11月に発売開始。同窓会学食プロジェクトと運営支援会社であるドリームリンクが企画した。麺は国産の小麦100%使用、比内地鶏の旨味（うま）を感じる醤油（しょうゆ）味のスープにあげ玉が入っていることが特徴。たぬき中華そばは「他を抜く」という意味がこめられた縁起物として、ここ一番の勝負どきにもお召し上がりいただきたい。

学食を継続して健全経営するためにも、同窓生をはじめとした、秋田高校の応援団のみなさんに、商品を購入することで、エールを送っていただきたい。
※売上利益の一部は、学食プロジェクトに寄付還元される予定です。

（価　　格）350円（税抜）
（問合わせ）株式会社ドリームリンク
TEL：018-863-9999　FAX：018-864-9999
URL：https://syuukou-ramen.com

ご注文はこちら

会費納入のお願い

秋田高校同窓会の運営は、その財源基盤のほとんどを会員の皆さまの年会費に依存しています。円滑な同窓会活動を推進するため、令和4年度の年会費納入にご協力賜りますようお願い申し上げます。同封の払込取扱用紙でコンビニまたは郵便局で納入くださるようお願いいたします。経費削減のため、できるだけコンビニ（期限あり）を優先してご利用ください。

年会費に関する取り決めは次のとおりです。

1. 年会費は会員1人あたり2,000円とする。
2. 母校卒業後4年間は年会費の納入を免除する。
3. 年会費の請求は単年度のみとし、過年度分は請求しない。

（財政委員会）

会員名簿データ確認のお願い

令和5年9月1日に同窓会員名簿第42号を発行します。名簿掲載内容に訂正がある場合や名簿への掲載を希望されない項目がある場合は、会員名簿データ確認カードに記入し、同封の返信用封筒で令和5年1月末日までに投函してください。メールでも受け付けします。

名簿販売のご案内は、令和5年5月下旬発行予定の同窓会だよりに同封いたします。完全予約販売です。（名簿委員会）

入札のお知らせ

1　同窓会員名簿印刷業者、掲載広告取扱業者募集

2　150年史印刷業者募集

・入札参加要件等は同窓会ホームページに掲載します。

・入札参加の意向のある方は、11月30日までに同窓会事務局にお知らせください。（名簿委員会・150年史委員会）

哀悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

敬称は省略させていただきました

令和4年

1月 島津清修（昭20④）
1月 零石衛夫（昭27）
1月 高村國男（昭13）
1月 池田治彦（昭41）
1月 菊地重明（昭28）
1月 平塚誠也（昭44）
1月 鈴木英雄（昭44）
1月 宮崎邦博（昭46）
1月 佐藤嘉一（昭37）
1月 河村榮一（昭29）

12月 細田信惇（昭30）
12月 斉藤隆郷（昭44）
12月 保坂司（昭26）
12月 加賀谷寿孝（昭38）
12月 湊屋周治（昭28）
12月 池田貞直（昭27）
12月 木村繁（昭34）

11月 渡邊良宏（昭20④）
11月 天童陽二（昭35）
11月 越中谷正人（昭45）
10月 古家秀紀（昭56）
9月 佐藤嘉武（昭33）
8月 加賀谷孝（昭36）
6月 鎌田洋介（昭49）
4月 平野勤（昭29）
3月 秋元勇（昭26）
3月 小助川五郎（昭27）
2月 大舘成機（昭42）
1月 田口英治（昭22）
1月 豊口邦彦（昭28）

令和3年

11月 清和宏（昭41）
8月 相沢喬（昭41）
8月 高橋郁夫（昭18）
4月 加賀谷鐵雄（昭20⑤）

令和2年

3月 浅利建雄（昭39）

平成31年

6月 本間金勝（昭31通）

平成30年

3月 越後屋勉（昭31）

平成29年

1月 吉田裕（昭36）

4月
出川一夫（昭29）
湊三郎（昭27）
斎藤治（昭47）
神成敏（昭36）
菅原久彦（昭56）
阿部喜一恵雄（昭52）
小山幹弥（昭31）
南紀夫（昭42）
山脇由美子（昭35）
小泉成夫（昭31）
狩野良徳（昭26）
東海林勲（昭28）
小田嶋春夫（昭18）
熊谷光太郎尚（昭37）
高田（昭29）
田村祐造（昭33）
加納健治（昭33）
高橋憲郎（昭40）
信太秀雄（昭39）
後藤紘平良（昭71）
鈴木行男（昭27）
細部榮（昭29）
小西忠邦（昭22）
橋本策郎（昭26）
児玉了正（昭29）
高橋照夫（昭42）
渡邊啓互（昭37）
大川敏雄（昭54）
小野良樹（昭37）
金山富雄（昭32定）
秋山勝美（昭34）
渡辺良吉（昭29）
武藤俊郎（昭21）
澤田有一（昭30）
佐藤直助（昭13）
佐藤静生（昭28）
青井啓二（昭52）
佐藤（B組）司（昭23）
田口富（昭72）
豊島慶治（昭42）
佐々木了三（昭44）
佐藤猛（昭33）
高貝真也（昭60）
佐々木三智雄（昭30）

5月
佐藤（昭20④）

3月
佐藤（昭20⑤）

6月
佐藤（昭20④）

7月
本郷（昭20④）
池田（昭20④）
荒川修（昭33）
榎伸（昭39通）
松村保（昭15）
大嶋健太郎（昭31）
吉田啓一（昭23定）
藤田紀一（昭22）
小野地隆則（昭24）
高橋久夫（昭23）
佐藤暹（昭30）
金田英行（昭21）
田口健（昭36）
草彌四郎（昭31）
佐々木邦久（昭33）
畑山（昭20⑤）
片谷信男（昭40）
加賀屋俊次（昭27定）
矢作恭一（昭45）
山下和幸（昭53）
武部良悦（昭40）
海山弘次郎（昭32）
京野敬次郎（昭38定）
伊藤恩（昭58）
福田三郎（昭20⑤）
嶋崎藤喜雄（昭28）
北條晃（昭28）
池田強士（昭42）
高田屋敏夫（昭34）
越後市朗（昭20⑤）
加藤喜一郎（昭21）
湯川敬治（昭29）
畑俊（昭35）
赤田（昭47）
藤井芳明（昭52）
佐藤良吉彦（昭25）
佐野法七（昭22）
加藤久光（昭33定）
富樫清和（昭40）
中村優子（昭43）
板波静一（昭20⑤）
米屋東吾（昭20⑤）

9月
佐藤（昭20④）

8月
佐藤（昭20④）

注（昭20④）は旧制中学を4年で卒業、（昭20⑤）は5年で卒業したことを表す

秋田基準寝具株式会社
代表取締役社長　柳原　正俊（昭和44年卒）
代表取締役会長　柳原　智子（昭和49年卒）
取締役本社工場長　柳原　弘幸（平成21年卒）
取締役企画管理室主任　柳原　史幸（平成21年卒）
〒010-0975 秋田市八橋イサノ6-1
TEL 018-862-4525 FAX.018-823-6484
info@akitakijunshingu.co.jp

より温かく　よりクリーンに
お客様と共に考え、環境の解決をサポートいたします。
株式会社サノ
代表取締役　佐野 宗孝（平成21年卒）
□本社
〒010-0061 秋田県秋田市卸町3丁目4番2号
TEL：018-862-6644　FAX：018-862-6646

MIYAGATA DENTAL CLINIC
みやがた駅東歯科
院長　宮形 養（みやがた ようすけ）（平成11年卒）
〒010-0851 秋田市手形字西谷地182-3
018-825-1150 miyagata-dc.com

東大赤門前にて。東大生気分を味わえた5日間でした！

留学生の方々とディスカッションを重ねました。

秋田高等学校
～北雄の翼2022～
エンパワーメントプログラム

2018年にスタートした、秋田高校独自のアメリカ海外研修プログラム「北雄の翼」が、今年は7月25日～29日の5日間、東京で実施されました。留学生と共にディスカッションやプレゼンテーションを重ねるエンパワーメントプログラムに加え、ASEANセンターや国連大学などの施設訪問、あらゆる分野で活躍されているゲストスピーカーをお招きしての講演会などを通して、生徒は視野を広げ、学びの意欲を高めることができました。第1回開催時より、本校同窓会から多大なご支援をいただいておりますが、本年度のプログラムにも引き続きご協力いただき、40人の2年生が充実した5日間を過ごすことができました。

7/25（月）	午　後	エンパワーメントプログラム（東大本郷キャンパス）「オープニングセレモニー」「自己紹介」
	夕食後	末廣 将志　氏　講演（SWAT Mobility Japan 株式会社　代表取締役）
7/26（火）	午　前	ASEANセンター訪問
	午　後	エンパワーメントプログラム（東大本郷キャンパス）「Positive Thinking、Identityについて考える」
	夕食後	佐野 智樹　氏　講演（経済産業省　経済産業政策局）
7/27（水）	午　前	エンパワーメントプログラム（東大本郷キャンパス）「Leadershipについて考える」
	午　後	エンパワーメントプログラム（東大本郷キャンパス）「Diversityについて考える」
	夕食後	武田 一輝　氏　講演（面白法人カヤック　企画部・人事部）
7/28（木）	午　前	エンパワーメントプログラム（宿泊先ホテル）「最終プレゼンテーション」
	午　後	国連大学訪問、周辺エリアの散策
	夕食後	金谷 さおり　氏　講演（本校OG、平成10年卒）（株式会社Interview Care　代表取締役）
7/29（金）	午　前	東京大学（柏キャンパス）見学　※諸事情により中止

本校OG金谷氏のご講演。先輩からのメッセージに気合いが入ります。

最終プレゼンテーション！皆、思いを熱く語りました。

参加生徒の感想

プレゼンテーションでは、いかにリスナーの興味をひいて自分の一番伝えたいことを伝えるかを意識して話した。独り善がりにならずに、リスナーと積極的にコミュニケーションをとったり、自分が言いたいことをゆっくり丁寧に言ったりするなどの工夫もした。しかし最も重要なのは、「絶対にこれを伝える」というpassionであることも学んだ。（小納和志）

コミュニケーション力、会話力、表現力がとても高まる貴重な機会。また、大きな話だが、人生をより充実したものにする第一歩がこの北雄の翼なのではないかと思う。秋高の仲間同士でも刺激し合えるので、参加しない手はない。（今野小夏）

末廣さんの話が印象的だった。頂点が見えない山を登るのは難しいという話は、どこまで勉強しても不安感に駆られることから、大学受験にも当てはまるかもしれないと思った。小さな成功体験の積み重ねは不安をなくせるという話を胸に、今後も先の見えない不安を少しでも小さくできるように日々の努力を怠らないようにして小さな成功を積み重ねたい。（若泉伶奈）

今回の研修における自分の取り組みに点数をつけるなら99点である。この5日間大きく変わることができたからだ。発表に対する自信や勇気等々挙げればキリがないほどたくさんの力を得ることができた。しかしもう1点はこれからについてである。この研修はまだ終わっていない。もっというとこの研修はこれからが本当のスタートなのだ。この5日間で学んだことを実生活に応用して初めてその1点を獲得できると思う。そのため、これからも挑戦し続けたい。（横塚廉太郎）

秋田高校同窓会だより vol.112
2022年11月20日

秋高NOW（ナウ）

届かなかった舞台へ

軟式野球部

私たち軟式野球部は、「全国出場」を目標に、日々練習に励んでいます。3年生の先輩方は、秋季大会では東北大会優勝、春季大会では東北大会出場、夏の選手権では西東北大会準優勝と、とても素晴らしい成績を残してくれました。しかし、目標としていた全国大会へはあと一歩届かず、とても悔しさが残る中、新チームが始動しました。

現在、2年生5人、1年生14人、マネージャー2人で活動しています。いつも楽しく練習していますが、新チーム発足当初はそれが悪い方向にいってしまい、なかなか充実した練習ができませんでした。そこで、ミーティングを開き、練習に対する姿勢をもう一度確認したり、チームや練習をよりよくするために、意見を出し合ったりしました。より一体感のあるチームになるために、コミュニケーションを強化したり、実力と経験が全然足りないので、より質の高い練習ができるように、工夫して練習に取り組んだりしています。

日々の練習を大切にして、先輩方が届かなかった「全国」という舞台への切符をチーム全員の力でつかみ取れるように頑張ります。

〔2年　鈴木 綾人〕

西東北大会準優勝（鶴岡ドリームスタジアム）

「知る」

クイズ研究同好会

秋田高校クイズ研究同好会は現在2年生5人、1年生1人で活動をしています。「高校生クイズ」や「AQL」、「What」などの大会で実績を残すことを目標に、メンバーがおのおのクイズに取り組んでいます。

クイズには定期テストなどのように決まった範囲はありません。そのため部員一人一人が自分の得意な分野を他の部員に教え、不得意な分野を教わる、自分の知らない分野について自分なりに調べてみる、これらを繰り返して実力を高めています。

クイズの楽しさは、難しい問題に正解することや誰よりも早く答えることだけではありません。知らないことを新しく知ることや自分の知っていることを誰かに伝えることなど、さまざまな楽しみがクイズの中に眠っています。

クイズ研究同好会は設立してから数年しかたっておらず、実績も個人の実力もまだまだ発展途上の状態ではありますが、「知らない世界を知る」などのクイズ自体の楽しさを忘れないようにして、これからもメンバー一同活動に励んでまいります。

〔2年　藤原 光翼〕

早押しボタンを使ってトレーニング中

事務局通信

「天上はるかに太平山の～海にと馳せ行く雄物川波」9月30日、雲ひとつない青空のもと、プレ150周年と校歌制定百周年を記念し、1、2年生が太平山登山と雄物川沿いの競歩、ラグビー場では3年生を中心に人文字がつくられた。太平山登山は28年ぶりとのこと。頂上で歌った校歌は一生の思い出になるのでは。校歌をBGMにしたドローン等の撮影もある記念映像の完成を楽しみにしている。同窓会からは、このイベントの交通費を支援している。

（悦）

編集後記

今号の「あの頃の思い出」は昭和40年夏の甲子園ベスト4投手大久保正樹さん（昭和42卒）の執筆。右頁の写真のスタンドで万歳している男性が「汝、何の為にそこに在りや」の第28代校長鈴木健次郎先生だった。知った途端ぐっと身近な人に。「青少年の足を洗う」が鈴木校長の教育指導理念。〝足を洗う〟中で何を語ったのか？至福の想像の中でコップ酒を傾けた。

（菅）

発行者／秋田県立秋田高等学校同窓会　秋田市手形字中台1番地
電話 018－832－9553　FAX 018－832－9588
印　刷／秋田協同印刷株式会社